

防災と臭気改善へ、住民と業者が対話

長谷川牧場をめぐる住民運動と、県議会での取組などをご報告します。

県議会議員 扶川あつし 「県政みたまま」 板野町・川端版

県政みたまま

扶川あつし

日本共産党



発行
県議会議員 扶川敦
徳島県板野郡
板野町犬伏字
大坪 78-1
TEL 672-5875
2007年
3月18日付

日本共産党板野郡生活相談所
〇八八（六七二）五八七五
なんでもお気軽にご相談を



この間私は、板野町川端と鳴門市大麻町松にまたがる「長谷川牧場」による森林開発と牛の畜舎増設について、災害や臭気の問題を心配する住民の皆さんとごいっしょに運動し、県議会委員会で取り上げて参りました。またこの間、問題の解決に向け、住民と牧場との話し合いを、仲介させていただいております。

無許可の森林開発が発覚

左の（経過）年表 谷川牧場が無許可で。その後県の指導にあるように、運動 森林開発を進めていく。その後の指導の発端は04年夏に 寄せられたこと。どの「復旧」が行われるという通報が県に 種子を吹き付けるなど「復旧」が行われ

れましたが、その後もさらに山体を掘削し開発地が拡げられました。

05年9月、私に

相談があり、私は初めて森林開発の事実を知りました。その後現地を確認するなどしたあと、牧場直下に住んでいる大麻町松地区の住民の皆さんらとご一緒に県庁で担当各課と面

談。災害や臭気問題の解決に向け、県の強い指導を求める話し合いを、数度にわたって重ねました。

議会でも追及、住民の会結成

とところが06年3月末県は、住民には何の連絡もせず、県の「土地利用指導要綱」に基づき開発許可を、牧場に与えてしまいました。

そこで、6月県議会経済委員会で私は、度重なる無許可開発を県が追認してきた責任を厳しく追及。これが、徳島新聞に大きく報道されました。（裏面写真）

< 経過 >

- 04年夏 住民の通報で無許可開発指摘、県が現地調査と指導
- 04年8月 顛末書提出
- 04年9月 復旧計画書10月完了届け
- 05年9月 扶川県議に住民が連絡
- 05年10月 県と住民第1回話し合い
- 05年10月 県に扶川県議が文書質問
・省略・
- 06年2月 県と住民第4回話し合い
- 06年2月 県が周辺水質調査
- 06年3月末 県が開発許可を出す
- 06年5月 検討住民第5回話し合い
- 06年6月 県議会経済委員会で扶川県議が県による開発追認を批判
- 06年7月 「守る会」結成
- 06年7月 住民と牧場の話し合い
- 06年8月 「守る会」現地周辺調査
- 06年9月 「守る会」県に申し入れ
- 07年3月17日 住民への説明会開催

（裏面に続く）

徳島市の畜産業者 無許可で森林開発

鳴門の牧場北側2.9ヘクタールを、今年3月に「承諾」

県内に35基

県議会経済委員会の報道
徳島新聞（06年6月29日付）

今回3月17日の説明会で牧場から示された開発計画は、別図のとおりです。住民の皆さんが最も

心配しているのは、①開発計画により谷川が増水して被害を与える心配はないか、

災害防止と臭気対策が問題

係者を中心に200人以上の賛同を得た、「鳴門市西谷山・板野町芦谷山の環境を守る会」が結成されました。

「守る会」は、住民のアンケートも実施。その中で出された要望をもとに、7月25日には県庁で、「守る会」住民と長谷川牧場の初めの話し合いが行われ、07年3月17日の説明会を迎えたわけです。

このなかで、牧場側は、開発計画の説明会を開くことを約束。その後、8月には「守る会」住民30人以上が参加した牧場周辺の調査、9月には、「守る会」としての県と鳴門市への申し入れも行われ、07年3月17日の説明会を迎えたわけです。

水量は増えない 臭気も減ると 説明が...

②畜舎の増設で牛糞尿が増えて臭気被害が増すのではないかと、ということですが、

住民による調査と検証が必要に

「守る会」からは、今後出された水量に関する計算結果を住民側も独自に検証すると同時に、新設を予定している堆肥化の施設についてその性能を知るための視察も行いたいので、情報を提供してほしいなどの要望が出されました。牧場側もこれに応じることになりました。

「守る会」からは、今後出された水量に関する計算結果を住民側も独自に検証すると同時に、新設を予定している堆肥化の施設についてその性能を知るための視察も行いたいので、情報を提供してほしいなどの要望が出されました。牧場側もこれに応じることになりました。

これについて、牧場側からは、①開発中には西谷側で若干水量がふえるものの、開発が完了した時点では1箇所にとまどめて容量を増やす、ため池の効果により、森林であつた頃より少し水量は減ることになる、

川端芦谷側のため池が埋まつている状況については、実情を牧場としても確認することになりました。

私として

飼育でよい牛をつくりたいので、一気に頭数が増えるのではないし、現在南側にある旧式の堆肥舎を奥に引いて新型の堆肥化施設をつくるので、臭気は今より減るはずだ、という説明がありました。

も、住民生活への影響が軽減されるよう、引き続きねばり強く取り組んで参りたいと思います。

長谷川牧場による 新開発計画説明図

07年3月17日



一旦池にたまった水は、この水路で少し下流の水路へ

計画地から流出する水量は、最終的に森林があつた時より少し減るといふ説明です

ここにあつた池が埋められ、北に移ります。鳴門市の許可が必要です。

これらの新しい堆肥化施設は、機械で糞尿を攪拌発酵させるため、早く堆肥化し、結果として従来より臭気は減るといふ説明でした。今後、新施設がどの程度の性能のものか、「守る会」として調査していくことになりました。位置は、従来の堆肥舎より北西の山の中に移るため、現在の位置より住宅から遠くなるのは、間違いありません。